



令和2年9月13日(日)、総合教育センター善行庁舎において、午前中にチャレンジコースの受講者対象(オープンコースも聴講可)の特別講座1を実施しました。

今回は、各講座の内容を概要としてまとめてみました。チャレンジコースの課題レポートの「概要」を書く際の参考にしてください。

小学校「子どもの命を守る」

児童にとって学校は学習の場である。しかしそれは、児童にとって、学校が「安全に過ごせる場所」であってこそのものである。教師は「児童の周囲には多様な危険がある」と意識して生活安全や災害安全、いじめや不登校など、あらゆる視点から児童が安心して過ごすことのできる学校づくりをしていくことが重要だ。そのためにも「児童を絶対に守る」との強い思いに立ち、様々な危険を予測したり、事後の適切な対応を実行していける力を持つこと。また、児童には「自分の命は自分で守る」という心を育むとともに、自分の命を守るための方法を自ら選択できる知識を身に付けさせていくことが大切である。



総合教育センター
梶山 忠範 教育指導員

特別支援学校「特別支援学校における授業づくり」

特別支援学校の教育課程には、「準ずる教育課程」や「知的代替の教育課程」、「自立活動を主とした教育課程」があり、より実生活に結びついた学びとなるよう「各教科等を合わせた指導」を行ったり、一人ひとりの自立と社会参加を目指して「自立活動」を行ったりしている。実際に授業を行う際には、話す前に子どもたちの聴く準備が出来ているか、視覚的支援を含めた環境の整備が出来ているか等、事前の準備が重要になってくる。その上で、子どもをよく知り、一人ひとりに合わせた教育を行っていく必要がある。



県立平塚ろう学校
窪田 朗子 総括教諭

中学校英語又は高等学校英語 「これからの英語教育」

英語学習において大切なことは、「やらせて(英語を使わせて)みて」「褒めて」「適切にアドバイスする」ことである。また、英語で授業を進めるに当たり、「生徒が理解できる易しい単語でかみくだいて言い換えたり、説明したりする力」が教員に求められている。そして、生徒の反応を見ながら、どこが得意でどこが苦手かを見取ること、最初から教え込まずに考えさせたり迷わせたりすることが大切である。実際の指導の場面では、飾りの少ない字体の方が初学者には分かりやすいこと、発音には基本と例外があることを理解させること、そして教員の作るテストが生徒の学習姿勢に影響を与えることなど、様々なことを意識しながら指導を行う必要がある。



神奈川大学
久保野 雅史 教授